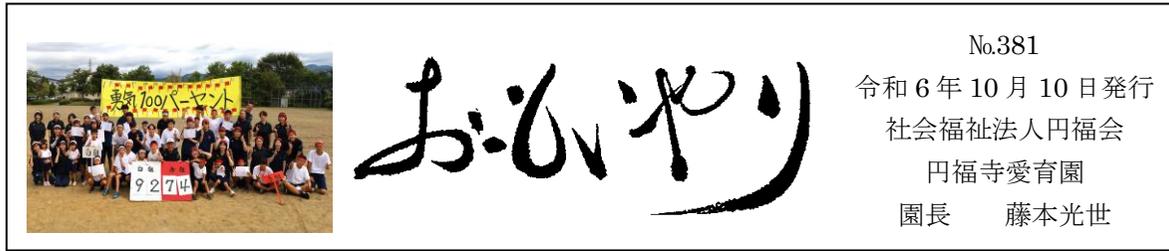


今年も秋晴れの中、愛育園大運動会が行われました。



運動会

園長 藤本光世

雨で一日順延になりましたが、好天と良いグラウンドコンディションに恵まれて第9回運動会を開催することができました。おいで下さったご来賓の皆さま、小中校長先生教頭先生、先生方、誠にありがとうございました。



今年も子どもたちの一所懸命な姿に大変感動しました。中でも、あおぞらホーム職員児童による組体操は涙が出るほどでした。愛育園の組体操は、職員、中高生、小学生と小さな子から大人までが一緒に行います。だから、スタンディングの高さは高く、そしてピラミッドの高さも高く、更に、「せーの」の掛け声で小学生が起き上がる…あれは何というのだろう…演技があります。私は初めてやった時の印象が強くて、演技をみながらその子を思い出しました。その子はもう高校を卒業し、

自衛隊に就職して2年になります。

いったい、いくつの種目を演技したのでしょうか。愛育園の子どもたちの練習は、夕食後の夜7時から体育館で始まります。毎日2時間以上、そして2週間以上は時間をかけたと聞きました。私が感動し、涙が出たのは、子どもたちの表情からです。みんな、とっても良い表情をしていました。あの子があんなにいい表情をして、嬉々としてみんなと協力して演技を行っている。普段は協力どころか暴言がひどくて嫌われているその子が一所懸命やっている。入所した頃はひどかった。その子が良い顔をしている。相手をしてくれている子、ありがとう。嬉しかったなあ。

数日して、その子が職員室に来たので「良い顔をしていたね。私はあなたの良い顔を見るのが大好きだよ」と話すと、なんだか照れ臭そうに、困ったように、これまたとっても良い顔をしていました。

岡田尊司著の「愛着障害」をはじめとするいくつかの本を読みました。子どもたちにとって「安全基地」が必要と、繰り返し書いてありました。生後1か月半までがとっても重要です。良い「安全基地」の条件として次のようにありました。

- (1) 安全感を保証すること。これが最も重要なのは言うまでもありません。
- (2) 感受性 共感性と言ってもいいです。子どもが何を感じ何を求めているかを察し共感する。
- (3) 応答性 相手が求めたときに応じてあげる。それはいざという時に「相談できる」「守ってもらえる」という安心感につながります。
- (4) 安定性 その場の気分屋都合で対応が変わるのではなく、出来るだけ一貫した対応をとることである。
- (5) 何でも話せること。

岡田尊司氏は、子どもにとって特定の大人が「安全基地」になることの重要性を述べています。

「安全基地」の理論の基になったのは、第二次世界大戦後に児童養護施設の子どもたちを対象に研究したボルビィでした。私たちの仕事と大きく関係していますね。

高年齢になり、しかも様々な事情で社会的養護に委託された子どもたちにとって、特定の大人、例えば里親や小舎制職員（当人にとって他人）が「安全基地」になることは、出来るのでしょうか。それは、とっても難しいことだと思います。

それなら愛育園のような集団養育で出来るのでしょうか。

岡田尊司氏は「発達障害グレーゾーン 生き方レッスン」で、「心を開き安全基地を手に入れる」と一つの章を割いて書いています。(101p)

私はここに、愛育園の今の養育方針の正しさを確信しました。集団養育こそ「安全基地を手に入れる」ことができるのです。

愛育園は、職員が子どもとたくさん遊び、最高の行事を創り「子どもの心を開くことにより、子どもが安全基地を手に入れる」ことを目指していたのです。その一つの効果が運動会の子どもの表情に表れていたのです。皆勤で通学し、表情が良く、行事にチャレンジする子どもたちに表れています。

社会的養護に携わる特定の大人（例えば里親や小規模施設の職員）が、措置された子どもの「安全基地」になるにはどうしたら良いでしょう。具体的な方法は分かっておらず、皆さん混乱しておられるのではないのでしょうか。私は、とても心配しています。

愛育園のように、子どもと一緒にたくさん遊ぶこと、子どもを外に連れ出して生きものに触れ、あるいは捕獲して飼うこと、たくさん楽しませること、キャンプや運動会や愛育園祭などのたくさんの行事を子どもと共に創ることは、やろうとすればできることであり、それは楽しいことであり、より良いもの、より楽しいもの、より心を開いてもらうものを追及できることなのです。

具体的であり、だから発展性があります。

このような方法で、子どもが心を開き、子どもは集団で「安全基地を手に入れ」、子どもとの愛着を築き、子どもが未知のことにチャレンジしていく社会的養育は、これまで誰もやったことがないのかもしれない。

だから、主幹課をはじめとする関係者に理解されないのかなあ。愛育園の子どもたちを見ていただいた方、役員の皆さん、小中学校の先生、地域の皆さん、長野県倫理法人会国際ボランティア委員会の皆さんはじめ支援者の皆さんには、一見してすぐに「素晴らしい子どもたち」と言っていたに。

この方法で大勢の子が育って、愛育園を「安全基地」として、子どもたちは卒園してからも戻ってきてくれて、愛育園を生涯の「根っこ」として逞しく生きて行ってくれば、愛育園の養育はノーベル賞級の実践かもしれませんね。その芽は見えています。休暇に戻ってくる子がいます。でき始めているのです。

円福寺愛育園の集団養育 万歳！

第9回 愛育園運動会

主任指導員 TM

9月23日、山崎公園グランドにて「第9回愛育園運動会」が行われました。

今年の運動会テーマは「力戦奮闘」でした。毎年赤組と白組に分かれて、全力の真剣勝負になるのが愛育園運動会の見どころです。毎年本気の勝負だからこそ通算成績は白組が5勝3敗と2つも勝ち越し、3連覇中で迎える第9回大会となったのですが、白組大将の私は負けが続いている赤組にアドバイスとして「力戦奮闘」の言葉を送りました。力戦には「身体的な力を全て出して戦う」という意味があり、「奮闘」には「心と気を奮って戦う」という意味があり、つまり「心と体の両方を充実させて戦いに臨む事が勝つ秘訣と言えるでしょう」とエールを送りました。この挑発を受けた今年の赤組は非常に脅威でした。

リレー以外の玉入れ、台風の目、つなひき、竹引きといった団体競技は全部赤組に持っていかれてしまい、いくつか引き分けにするのがやっとでした。勝ちに対する食欲さや綿密な作戦を立てて臨んでくる姿勢は本当にすごかったです。危うく負けてしまうかと思いました。ですが、今年も終わってみれば92対74で無事に白組が勝利する事ができました。

赤組の執念に今年は優勝を譲ってもいいかなとも一瞬思いましたが、私も白組の子ども達と先生方を率いる立場として手を抜くわけにはいかないと思い、また本気で来てくれた赤組に敬意を払う気持ちで最後は全力でひねり倒させていただきました。

これで白組は通算成績6勝3敗で、しかもV4を達成する事ができました。なぜこれほど白組

が勝てるのか？それは企業秘密なのですが、赤組の皆さんには是非その答えにたどり着いて、来年こそ白組を負かしてほしいですね！

このように愛育園運動会はみんなが勝敗を賭けて本気になって戦うという素晴らしさがあります。しかし、もう1つ勝敗以上に、私が本当に素晴らしく誇らしく思っている種目があります。それは扇子演舞と組体操です。扇子演舞は中学生以上の男子女子、そして職員が一緒になって難しい振り付けを覚え、みんなで動きをシンクロさせて演舞する種目です。組体操の種目は去年からあおぞらホームの男の子達と男性職員が取り組んでいます。扇子演舞も組体操も子供達と職員が一緒になって難しい事に挑戦していく事でお互いの関係性も深まりますし、練習や本番を通して本人自身も大きな成長を遂げていきます。私が今年、例年以上に良かったと思うのは練習スタート日からみんなが意欲的であったことです。いつもは自信の無さから最初は消極的で、徐々にできるようになってくると意欲が湧いてくるといった感じなので、それを思うと練習開始前から日々の生活によって成長している子ども達の様子を感じてとても嬉しくなります。また運動会が近づくにつれ練習がハードになってきてもやる気をなくしてしまう子が出てくることもなく、むしろやればやるほど楽しそうな雰囲気が増幅していき、それがとっても心地の良い空間となっていました。きっと一人でやっていたら気持ちが折れたり投げ出したりしてしまうと思いますが、みんなでやるから最後までやり遂げられるし、楽しくやっただけで知らないうちにどんどん成長もしていけるなんて、なんて素晴らしいことなんだろうと子ども達の様子を見て感じました。



私自身も子ども達の前向きなエネルギーの中に交じっていたくて、去年と全く同じなのですが、気づけば毎日練習に参加していました。

いつもいつも思うことですが、こうやって周囲の人の心を動かしてしまう子ども達のエネルギーを感じると、本当に子ども達には無限の可能性あることを確信します。いくつか子どものエピソードを紹介させてください。

まずは中学2年生のRくん。今年の組体操では、音楽の中でテンポよく技を決めていって、曲の終わりに丁度最後の技が決まる事を目標に立て、4曲30種の組体操を構成しました。これが非常に難しく5人技などのグループ技になってくるとバラつきが出てしまったり全員技に移動や準備に手間取り、全

く曲に合いません。Rくんはあまり運動が得意ではないのですが一生懸命黙々と練習しました。他の子たちや先生方も目標に向かってとにかく練習を重ねました。すると、運動会が間近に迫ってきたある日の練習でバッチリ曲にハマって技を決める事ができました。みんなすごく達成感がありました。そしてその時、Rくんが私に言ってきてくれた言葉が、「曲に合わせて最後の技が決

まった瞬間すっごい気持ちよかったです。あの爽快感は生まれて初めて味わった気持ちです。」でした。大げさではなくごく自然な様子で、素直にそういうことが言える感性がまず素敵だし、家庭では味わえない達成感や成長を経験させてあげることができたと思うと組体操の取り組みがすごく意義のあることに感じました。本番でもバッチリ成功させられた事も大きな自信になったと思います。



次に高校2年生のRさん。Rさんとは毎年扇子演舞で使う横断幕の題字を書くのが恒例になっています。他の中高生の女の子たちも手伝ってくれて、今年もとても素晴らしい横断幕ができたのですが、その後のRさんとの雑談の中でマラソンの話になりました。Rさんのマラソン嫌いはもともと有名な話なのですが、Rさんの方から「今年も本気では走らない」「走っているとヘラヘラ笑っちゃうんだよね」「沿道から応援の声をかけられると「やめて(怒)」って思っちゃう」と笑いながらネガティブ発言を連発していました。普段は気持ちの優しいRさんがそこまで言うということはよっぽど自信がなく嫌なことだろうと、私はその姿勢を否定することも肯定することもしませんでした。そして、本番。なんと顔を真っ赤にして全力でトラックに戻ってきて、ゴール後苦しくて泣きそうになっているRさんがいました。なぜそうなったのか私は未だに何が何だかよくわかりません。ただ、最近園長先生によく言われる言葉が頭をよぎります。「人は自分で幸せになろうとしないと幸せにはなれない」「自分でやろうと思わない限り、結局やりきれない」。きっとRさんの激走はそういうことなんだと思います。色んな葛藤を自分で乗り越えた事を想像すると本当に感動していました。

このように今年の運動会は子ども達の成長が随所に詰まった素晴らしい運動会でした。「力戦奮闘」のテーマに込めた本当の意味は、戦うべき相手は赤組にとって白組ではなく、白組にとって赤組ではなく、相手は常に自分自身ということでした。自分自身の課題から目を背けず向き合える子を楽しく育てていく。これが白組が勝ち続けられている秘訣です。赤組の皆さん、来年はぜひ優勝を目指して頑張りましょう！

お忙しい中、運動会を参観して下さったご来賓の皆様、学校の先生方、子ども達の頑張りを応援して下さりありがとうございました。

愛育園大運動会

あおぞらホーム Y・S

9月23日、愛育園大運動会が開催されました。自分は毎年赤チームなのですがずっと連敗中であり今年こそは絶対に赤が勝って見せようと頑張りましたが、結果は今年も赤が負けてしまい

ました。ただ、今年の負けは例年の連敗とは違って気持ちの良い負け、というか来年につながる為に得たものがあった負け、というか上手く言い表せないけれど完敗ではなかったなと思っています。

準備の段階ではどんな行事もいつもギリギリになって慌ててしまう事が多いのですが、今年の運動会は全ての準備が早く出来たのではないかと考えています、扇子演舞についても初めての振り付けで覚える子が多い中でも一人一人が積極的に自主練などをしてだいぶ早い段階で形になっていて皆に余裕があったこと、全体の準備についても先回りして色々な準備が出来て、さらに一日延期になっても余裕をもって対応できたな、と感じています。

そういった気持ちの余裕があったおかげで、赤チームは種目一つずつ作戦を練る事ができました。中でも自分自身鳥肌が立った種目がありました。それは綱引きでした。綱引きの作戦も自分が立て、事前に子どもたちにレクチャーして挑みました、細かい作戦内容は控えますが作戦の一つに「全員が綱の左側に立ち一列で綱を引っ張る」というものがありました。本番を迎えてみると白チームは綱の両側に立ち、赤チームは全員綱の左側に立つという全く別の戦法での対戦になりました。子どもたちの中には「白は両側だけど赤はこれで大丈夫か」という意見も出ましたが、しっかりと裏付けの下での作戦だった為、白組の布陣を見てこれなら勝てる。と確信し子どもたちに「絶対に大丈夫、作戦通りにいぞ！」と声をかけました、また子どもたちも作戦を信じてくれて勝負してくれました。結果は二回戦とも赤の圧勝でした。すると子どもたちから「すごい、余裕で勝てた！」という声が上がりました。自分の立てた作戦を皆が信じてくれて実践してくれて勝たせてあげることが出来て子どもたちが喜んでいたことに本当に鳥肌が立ちました。正直、この勝ちがあれば全体で赤が負けただけいい。くらいに思えるほど自分の中では価値のある勝負でした。

数ある種目の中の綱引きというたった一つの数分間の競技の中で「自分たち職員の役割ってこういう事なんだ」という大きな気づきがあり、ハッとさせられました。そして来年は赤の勝利を確信した。そんな運動会でした。

愛育園運動会

まごころ保育士 T・S

先日、第9回愛育園運動会が行われました。どの競技も子どもと職員が全力で取り組んでおり、白熱してとても盛り上がりました。中でも印象に残っているのは応援合戦やリズム体操、組体操です。今年も私は応援合戦の係でしたが、子どもたちとの練習の前に振り付けの確認や立ち位置の確認など準備をした上で、まずホーム練習を始めました。子どもたちはどんな雰囲気練習するのかと緊張もありましたが、始まってみるとみんな和気あいあいとしており、前向きに取り組んでくれました。時には集中が欠けたり、茶化したりすることもあり、このままだと中途半端

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

な感じになりそうだなと心配していましたが、ホーム練習の中で声出しをしたり、振り付けの確認をしたりする中でだんだんと形が揃っていき、本番は達成感を味わうことができました。今回先頭で声出しをした S さんや R さんも個別で練習をしてもらったおかげで、本番今までに無いくらい堂々と大きな声を出してくれ、後ろで聞いていてとても嬉しかったです。また、リズム体操も子どもたちが練習からとても楽しそうにしている、とても微笑ましかったです。まごころの小学生の R さん、M さんは学校から帰る最中に「今日練習あるかな」と楽しみにしているくらい前向きでした。年中の K くんは去年かけっこも怖くて一人で走れないくらいだったのに、本番一番前で一生懸命踊っていて大きな成長を感じました。あおぞらの小学生たちも少し緊張しつつも真剣に踊る姿があり、終わったときの表情もとても良かったです。最近ちょっとかっこつけたい様子の A くんが照れながらも振り付けをしっかり覚えて踊っているところもとても良かったです。組体操も普段とは違った真剣な表情やみんながたくさん練習してきたことが伝わる迫力のある発表で、見ていてとても感動しました。運動会を通して、子どもたちの隠れた力を引き出して、自信に繋がってほしいなと思いました。

第9回愛育園運動会

あおぞらホーム F・K

9月23日に今年度も愛育園運動会を行いました。当初の予定では、前日の22日に行う予定でしたが、雨天のため延期となりましたが、23日は天気も良く運動会日和の中、開催することができました。

私は、今年度は白組で参加しましたが、今回の運動会では赤白共に拮抗した戦いで、最後の最後までどちらが勝ってもおかしくない、非常に良い勝負をしました。結果としては白組が勝ち、私も子どもたちと一緒に喜ぶ事ができました。

また、今年度も中高生の扇子演舞とあおぞらの組体操を行っており、子どもたちと一緒に毎日のように練習を行い、本番では、練習の成果を発揮して子どもたちと一緒に最高の演舞をすることができました。

第9回愛育園大運動会

まごころホーム N・R

9月23日に第9回愛育園大運動会が行われました。当初の予定では22日に行われるはずでしたが、悪天候のため翌日の開催になりました。そして、当日は晴天に恵まれとても良い運動会になりました。

私は、初めての運動会だったので当日はもちろん印象に残っていますが、準備期間もとても印



(令和6年10月10日発行 月刊「円福」529号付録)

象的です。リズムダンス係を任せていただき衣装製作から関わらせていただきました。衣装製作は初めての経験でしたが、まごころ中高生がたくさん手伝ってくれたおかげでとても素敵な物ができました。全員が衣装を着て踊っている姿にとっても感動し、頑張っていて良かったと思いました。また、練習を頑張っていた幼児さんや小学生も、本当に楽しそうに踊っていて練習よりも上達していたので、一人一人の成長を感じることができました。他にも、扇子演舞に参加し子どもたちと共に練習しました。扇子演舞は本当に難しく何度苦戦しましたが、時には子ども達に聞いて教えてもらい踊りきることができました。また、SちゃんとRちゃんが声出しの練習を本当に頑張っていたので、当日は練習の成果がとても良く出ており、二人共とても緊張していたと思いますがすごく大きな声を出せていました。そのおかげで扇子演舞は大成功でした。

当日はとても良い戦いで最後まで赤組白組どちらが勝つか分からいくらい接戦でしたが、白組が優勝しました。

私自身、子どもたちと練習や準備をする中でどんどん上達して形になっていくことが嬉しかったですし、一人一人の頑張りをや努力を感じ、子どもの頑張りに応えたいと自分の活力になりました。とても楽しい思い出になりました。



第9回愛育園運動会

あおぞらホーム S・K

9月23日に愛育園の運動会が開催されました。元々は22日に予定されていたのですが、雨のため延期となり、天気が心配されましたが、幸いにも晴天の中で無事に実施することができました。

子ども達は、リズムダンス、扇子演舞、組体操など、様々な演目に向けて日頃から熱心に練習に取り組んでいました。特に、テスト勉強や部活動と両立しながら一生懸命頑張る姿は非常にたくましく、その努力が大きな自信となって、本番では素晴らしい成果を発揮しました。また、他の競技でも職員を含め全員が真剣に競い合い、会場全体が一体感に包まれていました。

初めて参加した愛育園の運動会は、とても素晴らしい思い出となりました。

愛育園大運動会 あおぞら児童感想

今年僕は白組になりました。最初に短距離走をしました。僕が勝つことができ1位でした。

次に玉入れをして結果は2回戦って2回とも同点でした。マラソンではラストスパートがきつくて、惜しくも4位でした。メダルが欲しかったです。二人三脚では、パンをとるのが難しく2位でした。組体操では、曲と技のタイミングが良く良かったです。ウェーブが個人的には大変でした。組体操のテーマは「愛」だったのですが、テーマの通り相手を思いやり「愛」のある組体操になったのではないかなと思います。扇子演舞では練習がすごくうまくできていたのに本番では緊張で振りが飛んでしまいました。でも最後までやり遂げることができました。オールスターリレーではアンカーのY君が最後ギリギリで相手を追い抜き勝つことができました。得点は白組が92点で赤組が74で白組が勝つことができました。



組が92点で赤組が74で白組が勝つことができました。

(中学2年生 M・Hくん)

今年は絶対に負けないその一心で準備期間は行ける日は毎日土手に走りに行きました。扇子演舞も組体操も成功させるその一心で頑張ってきました。マラソンは3位、扇子演舞と組体操も大成功だったと思います。また、自分の中で成長したと思うことが一つあります。それは声です。自分はとても声を出すのが苦手で、特にたくさんの方が聞いているときが苦手でした。ですが、運動会の扇子演舞ではとても大きい声が出せました。これで苦手が克服できたとは思っていませんが、演舞が終わった後の達成感は声を出すことより大きいものになりました。またそのことも楽しいと思えるようになりました。リレーの最後は何が何でも勝ちたくて思わず飛び込んでしまいました。結局、赤組はまた負けてしまったけど、気持ちでは勝っていたと思います。来年は負けません。

(高校2年生 S・Nくん)

愛育園大運動会 まごころ児童感想

9月23日に第9回愛育園大運動会がありました。私が特に頑張った種目は、「マラソン」と「扇子演舞」です。マラソンは自分にとって苦手な競技ですが、一生懸命走った結果、今回マラソン中高生女子の部で第3位になることができました。表彰されたことがあまりなかったので本当にうれしかったです。扇子演舞は、今年も前に立ち、大声を出しました。本番前にたくさん声を出す練習をしたので自信をもってできました。みんなから「よかったよ」と声をかけてくれたのでうれしかったです。また、今年は優秀賞をもらうことができました。とっても嬉しかったです。

今年の目標は「全部やる！全部全力！」でした。あきらめず全部できたし、全力でやれたので良かったです。これからの園の生活に生かしていき、次も頑張ります。

(高2・Rさん)

9月23日に運動会がありました。私が思い出に残っていること、頑張ったことは3つあります。

一つ目はマラソンです。今年はTちゃんを抜くことを目標にしていたけど、追い抜くことはできませんでした。去年とは順位は変わらなかったけど、中高生女子の中で二位だったので良かったです。

二つ目は、まごころ中高生で作った横断幕です。今年は、みんなで案を出して言葉などを決めました。また、一人一文字書かせてもらいました。難しい「勇氣」はRちゃんが書いてくれました。めっちゃ上手でびっくりしました。そして、今年は手形ではなく赤・白の旗を人数分描きました。やると決めたとき、当日までに完成するか不安だったけど、三時間くらいかけて何とか終わらせられました。みんなで協力して作り上げる事ができて良かったです。

三つ目は、応援合戦です。今年は最後ということもあってパート3の先頭をやることになりました。初めは人前で大声を出すことに抵抗があり、なかなか声を出せませんでした。でも、I先生やT先生とグラウンドや図書館で声出しの練習をしたので最初のころに比べれば声が出せるようになりました。当日はとても緊張したけど、何とか出すことができました。

最後の運動会、勝たなくて悔しかったです。でも、最後まで全力でやりきれて良かったです。次は、愛育園祭があるので、準備から頑張りたいです。今年度も後半に入ってきて、卒園まで残り半年しかないので、たくさん思い出を作りたいです。

(高3・Sさん)



あおぞらホームだより

あおぞらホーム S・S

2学期も始まり、あっという間に10月となりました。夏休み中は毎日のようにプールへ行っていたと思うと懐かしく思いますが、運動するにもよい季節になってきて、土日平日問わず、あおぞらホームでは天気が良ければ外遊びを行っています。小学生は主に鬼ごっこや野球。中高生はバスケットをすることが多いのですが、全員に共通するのが自転車での移動です。平日学校から帰って来て少しでも時間があれば小3のH君は自転車に行こうと声をかけてきます。中3のY君も何かする訳でもないのに、とりあえず自転車に乗りたいのかどこか行きましようかと声をかけてき

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

ます。ひと昔前までは、テレビをずっと見ていたのか、外遊びに声をかけても乗る気ではない子もいましたが、だいぶみんな自転車を使って外へ行くことが好きになってきていると感じます。ただ、自転車に乗って満足する子もいれば、やはり行った先で思いっきり遊べるかということも大事なので、今後もっとみんなで遊べるものを増やせていけたらと思います。みんなで思いっきり野球をしていた時もあるので、今はまだみんなレベルがそれぞれで釣り合わず上手く遊べない部分もあるので、遊びの中でもっと気持ちを盛り上げてあげ、安定しみんなで夢中になれるよう遊ばせていけたらと思います。

今年の運動会もとても白熱し、スポーツ熱が強いを感じるので、本格的に寒くなる前に、あおぞらホームのみんなと少しでも多くの時間を運動に使っていかれたらと思っています。

まごころホームだより

まごころホーム T・M

朝晩は涼しい日が続き、ようやく秋の始まりを感じられるようになりました。子どもたちは2学期が始まり約1か月が経ち、毎日元気に学校に通っています。9月の大きな行事である運動会に向け、まごころホームでは扇子やリズム体操の練習をほぼ毎日行いました。最初はうまくできなかったことが毎日の練習を経て、だんだんできるようになっていき本番では完成度の高い発表ができたと思います。特にリズム体操はまごころホームの幼児から高校生までが参加し、みんなで一丸となり楽しくダンスを発表することができました。子どもたちにとっても思い出に残る運動会になったと思います。

まだまだ2学期は長く続きますが、季節の変わり目で体調を崩さないよう子どもたちをサポートしていきたいと思っています。

調理室だより

調理員 I・H

とても暑かった夏から、秋風が心地よい季節になりました。

子供達は充実した夏休みから新学期が始まり、毎日元気に登校しています。

9月中旬には愛育園運動会が行われました。

競い合う中でも数々の種目を笑顔でやり遂げる姿、扇子演舞やダンス、組体操での真剣な表情に胸が熱くなりました。

これから寒くなってきますが、心温まる料理を心がけます。

9月1日 Y君 お誕生日メニュー

温玉牛丼・ポテトサラダ・イカリングフライ・パインシェイク

(令和6年10月10日発行 月刊「円福」529号付録)

9月19日 お彼岸 おはぎ(ごま・きなこ・あんこ)

9月22日 愛育園運動会(雨の為延期) お弁当

そばろ2色丼・肉巻きフライ・ポテトサラダ・きんぴらごぼう・

ミニトマト・ブロッコリー・巨峰

9月23日 愛育園運動会 お弁当

おにぎり・唐揚げ・ウインナー・ハムとチーズのミルフィーユ・

スパゲティサラダ・ミニトマト・ブロッコリー・オレンジ

9月24日 お彼岸 お団子(みたらし)

9月29日 支援者N先生と昼食会

海老天丼・キュウリの浅漬け・わかめの味噌汁・イチゴのパバロア

